

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名：株式会社 萩・森倫館

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：36~38%（野心的な見直し）  
2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量/実質GDP）35%減。
- 現在の人口：44,773人(R3.9月)、将来：37,062人（2030年）、23,102人（2050年）（萩市人口ビジョン（2020年3月改訂）より）
- 萩市総合戦略（2020年3月策定）  
新規林業従事者数 現状：0人（2018年）→目標：5人（2024年）  
搬出材積量(主伐、年間) 現状：3,000 m<sup>3</sup>（2018年）→目標：11,700 m<sup>3</sup>（2024年）
- 第2次萩市環境基本計画（2017年3月策定）  
市民一人当たりの電気使用量（CO2排出量） 現状：5,211kwh（3.695kg-CO2）（2015年）→目標：4,950kwh（3.325kg-CO2）（2026年）  
林業振興会等森林ボランティア組織数 現状：7団体（2015年）→目標：7団体（2026年）  
計画的な間伐の実施 現状：104.4ha（2015年）→目標：100ha（2026年）  
森林教室等開催数 現状：13回（2015年）→目標：15回（2026年）  
環境に関する出前講座開催数（子ども対象） 現状：13回（2015年）→目標：20回（2026年）  
子どもを対象とした自然体験型環境学習（水辺の教室等）開催数 現状：5回（2015年）→目標：7回（2026年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- 地元ヒノキ材の利用促進：建材利用促進、新商品開発（（株）萩 森倫館 工務店 製材所他）
- 里山賃貸住宅事業：里山賃貸住宅の構想 建設 運営（萩 森倫館 市 地域工務店 地域製材所 森林組合他）
- 人材育成：林業ツアー、勉強会、教育プログラム（（株）萩 森倫館 工務店 製材所他）
- 森林資源普及啓発：森 木を知る触れられるイベント（（株）萩 森倫館）
- 木のある暮らし価値創造事業：  
地域産木材PRイベントの実施、木質空間の見学会 イベント等の実施（（株）萩 森倫館 市 地域工務店他）
- 山・森・木材で遊べる場づくり事業：  
森林公園 キャンプ場をフィールドとした森林サービスの開発 提供（（株）萩 森倫館 市 森林サービス事業者他）

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2021年度末)	実績値 (2021年度末)	単位
環境	地域の取組状況	搬出材積量	3,000	-	4,488	m <sup>3</sup>
	地域の取組状況	林業ツアー参加者数	0	3	4	人
経済	財源が充実する	萩産製品開発数	0	1	3	件
社会	行動が変わる、循環が生まれる	萩産木材利用空間着工数	0	3	4	件
	行動が変わる	プロモーションイベント開催数	0	1	1	回
	行動が変わる	勉強会参加者数	0	20	24	人
	行動が変わる	森林 木工コンテンツ参加者数	0	5	7	人

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

→ ●森とまちと人がつながり、風土 文化 伝統 技術が継承、循環していく地域

当地域は、かつて木材とともに森林から得られる竹や薪、炭などを利用した地場産業や生活に根ざした森林資源利用がなされていた集積地である。市内に大きく広がる森林資源の循環利用を中心に、林業の再生と雇用創出の「もりづくり事業」、教育機関とも連携し地域資源を活用する人材を生み出す「ひとつづくり事業」、森林資源を中心とした地域資源の利活用の継承と普及促進をおこなう「まちづくり事業」を行っていく。それらの事業を有機的につなげることによって、地域に根付く歴史 文化との関連付けや藩政時代から続く人材育成の地としての特色を生かした地域を目指す。

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2021年度末)	目標年度 2030-2050年度	目標値	単位
環境	森林の状況	搬出材積量	3,000	-	2030年度	11,700	m <sup>3</sup>
	森林の状況	計画的な間伐	104	-	2030年度	100	ha
経済	財源が充実する	萩産製品販売額	0	-	2030年度	10	百万円
	財源が充実する、外貨獲得	森林 木工コンテンツ売上額	0	-	2030年度	1	百万円
社会	行動が変わる、循環が生まれる	萩産木材利用空間着工数	0	3	2030年度	10	件
	行動が変わる	森林・木材関連事業新規従事者数	4	-	2030年度	15	人
	行動が変わる	萩産材を利用したことがある人の割合	17	-	2030年度	50	%

※上位計画を基にしている目標値は、現状を踏まえて今後修正される可能性があります

⑤短期目標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

森とまちと人がつながり、風土 文化 伝統 技術が継承、循環していく地域を目指すには、地域産業である林業、森林の状況、森林 木材がもたらすまち 人の暮らしへの影響、暮らしの豊かさについて知ることが重要である。このため、萩の森 木について発信する機会、森林資源を中心に地域資源の活用 循環について学ぶ勉強会、木材に触れられるワークショップ、事業者向けの林業 製材の現状を知るツアーを開催し、萩産木材を利用する事業者 ユーザーを増やすことで域内流通量 販売額も増加する。また、地域産木材製製品や森林 木工コンテンツの商品開発を進め、新たな森 木に触れられる接点の創出、域外からの収益増を図る。

木のある暮らしの価値が照らされ、地域材の循環利用が増加することで、森林の整備、歴史的な街並み 建物及び技術 文化の継承、景観 地域への誇りにも影響することが考えられる。

当面は、木製品、木質空間、コンテンツにより、財源を獲得しながら木のある暮らしの価値を発信し、主体的に森林 木材 環境に関わる人を増やしていく。

※環境 経済 社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください